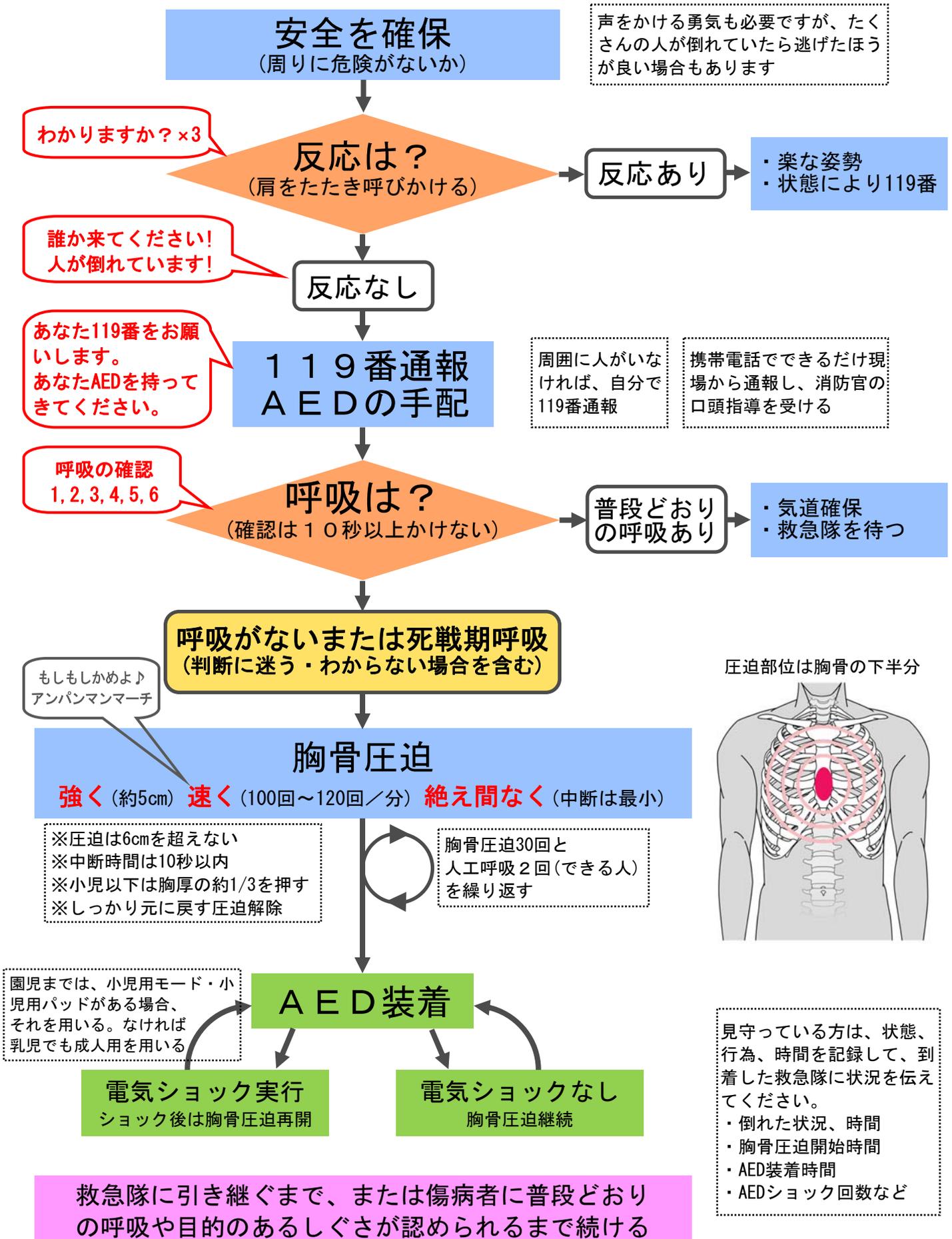
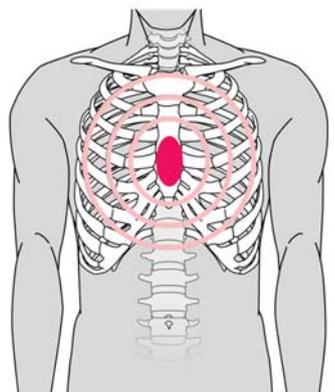


救命の手順 (一次救命処置)

JRC-G2015対応版 日本防災士会千葉県北部支部



圧迫部位は胸骨の下半分



救命手順 (大きな変更なし)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周囲の安全確認 2. 肩を叩きながら声を掛けて、反応があるか確認 3. 反応がなければ、大声で助けを呼ぶ 4. 周囲の人に(いなければ自分で)119番通報(指示受け可)とAEDの手配を依頼 5. 普段通りの呼吸をしていないか確認 (迷ったら胸骨圧迫開始) 6. 胸骨圧迫・人工呼吸(30:2) (人工呼吸はできる人のみ) 7. AED 8. 救急隊員に引き渡すまで6.7.を繰り返す
-------------------	---

	G-2010	G-2015	備考
救命の連鎖	一次救命処置(CPRとAED)	一次救命処置(心肺蘇生とAED)	連鎖そのものに大きな変更はない
通報・AED手配	119番(救急車)とAEDの手配	119番通報した際に電話を切らずに指示を仰ぐことができる	携帯電話の普及に伴いスピーカーを利用して電話を切らずに指示が受けられることが強調された
呼吸の確認と心停止の判断	反応がないことを確認、10秒以内に普段通りの呼吸があるかを確認	G2010に加え、呼吸の確認に迷ったらすぐに胸骨圧迫を開始する	「呼吸の判断に自信が持てない場合は心停止とみなす」が、新たに追加
胸骨圧迫の位置	胸の真中	胸骨の下半分	「胸の真中」は削除された
胸骨圧迫のテンポ	1分間に100回以上	1分間に100回から120回	140回以上だと蘇生率が低下するというデータがある
胸骨圧迫の深さ	5cm以上	約5cm ただし6cmを超えない	深ければ深いほど良いわけではないことから範囲が明確になった
胸骨圧迫の解除	—	押したらしっかりと胸を元に戻す	解除が強調された
胸骨圧迫の中断	—	胸骨圧迫を中断する時間を最小限(10秒以内)にする	交代タイミング、人工呼吸、AEDパッド貼の中断を最小限に。胸骨圧迫の時間比率は60%以上を推奨
人工呼吸	人工呼吸(30:2)がためられる、器具がない、感染の危険がある場合は行わなくてもよい	人工呼吸の訓練を受けており、それを行う意思がある場合に30:2の割合で行う	成人・小児ともに人工呼吸の重要性を強調させる方向になった
AED	—	—	特に変更なし